

小学校四年だった頃
私はおばあに戦争の話を聞かせてと
頼んだ
でも

おばあは 長い沈黙の後 こう言った

「あんたは 知らなくていいよ

あんなひどいこと 知らなくていい

それより うーんと勉強して

幸せになりなさい。」

と、目に涙をため

私の頭をなでた

今年もまた、おばあの悲しい日が
巡ってきた

礎の前で手を合わせ

刻まれた家族の名前をさする

兵士となり 帰ってこなかったスーお父さん

最後の最後まで盾となり

子供を砲弾から守ったアンマー お母さん

そして

二人きりの姉弟

幼い弟の名前

食べさせてあげる物もなくなり

ひもじい思いをさせて亡くなった

「ごめんねー、ごめんねー。」

幼い弟を抱きかかえ 謝る姉

おばあの六十七年前の姿が

まるでタイムスリップしたかのように

私の目の前に映し出された。

わずか十四歳で一人ぼっちになった

おばあの硬い口が

少しずつ解き放たれた

「知らなくてごめんねー」

と、語らなかつたあの時

幼い弟を思い出したのかもしれない

深い悲しみの中の十四歳のおばあと

豊かな時代に生きる十四歳の私

明日への希望を失い

絶望のどん底にいた十四歳

希望に満ちあふれ

幸福の絶頂にいる十四歳

きつと

今の私では 生きていけなかつたに
違いない

今だから 伝わった

あの時のおばあの深い苦しみが

今だから 伝わった

戦世 いくさゆーの

行き場のない深い憎しみが

そして 知った

「うーんと勉強して

幸せになりなさい。」

と言った本当の意味を

本当にあつた沖繩戦を

嘘 偽りのない真実を

伝えていこう

後輩へ 我が子へ

そしてまた その子供達へ

何もかもを失ってしまう

戦争という歴史を

繰り返さないために

私に伝えるために

おばあは生きてきた

私も生きていこう

恒久平和を願って